

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：健康的な生活スタイル推進の基盤がコミュニティ主体で構築される。 先行案件「非感染性疾患リスク低減事業」の成果である地域レベルの非感染性疾患対策活動が、ワークショップと実地支援を通じて政府系の保健組織であるコミュニティ・グループ（以下「CG」とする）に移行され、CGを地域の非感染性疾患（以下「NCDs」とする）の対策の担い手として育成することができた。 また、コミュニティクリニック（以下「CC」とする）や家族福祉センター（以下「FWC」とする）、ユニオン議会、学校、ユースクラブなど地域内の様々な組織に属する計 2179 人が NCDs 対策ボランティアとして育成され活動をしている。 プロジェクトが育成した人材が協働して地域ぐるみの取り組みが行われ、対象地域住民の環境改善が推進された。具体的には、啓発活動や健康診断キャンペーンが CC や FWC および村の中で実施された。その際、ユニオンでの会議や CG のワークショップを通じて、脆弱層が多いエリアが選定され、そのエリアにサービスが行き渡るように実施された。本事業の活動を通じて 253 回の健康診断キャンペーンが実施され、参加者は 16,131 人となり、うち 8 割が女性（13,041 人）となった。 先行案件の対象地域のフォローアップとモニタリングが行われ、プロジェクトのインプットが減少した後の各活動の継続状況を検証している。その結果を、現行事業の対策にフィードバックし、持続発展性の向上に役立てている。成果発信の目的で保健局と協働で作成した健康診断キャンペーンガイドブックが完成し印刷をした（1500 部）。 このように各事業目標の達成状況は順調であり、上位目標である「健康的な生活スタイル推進の基盤がコミュニティ主体で構築される。」は達成されつつあると言える。
(2) 事業内容	本事業は、バングラデシュで深刻化する NCDs の罹患と重症化のリスクを低減させることを目的としている。日本の生活習慣病対策の要素を取り入れながら実施された先行案件の成果を展開し、3 年間で上位目標を達成する計画となっている。 1 年次にあたる本年は、クルナ管区ジョソール県ショドル郡内の 4 ユニオン（先行事業の対象地域）と新規 11 ユニオンの計 15 ユニオンで、①バングラデシュ国政府の保健政策で設置された「コミュニティクリニック（CC）」の運営母体として形成された「コミュニティ・グループ（CG）」に先行事業の成果を引き継ぐ、②保健行政、地方行政、学校及びユースクラブを含む地元組織等の連携を深めながら「NCDs 対策ボランティア」を育成する、③コミュニティ自身で NCDs への強靱性が維持されることを目指した。 個々の事業に沿って実施内容を述べれば次のとおりである。 (ア) 地域レベルの NCDs 対策活動の担い手を、社会支援グループから、「コミュニティ・グループ」に移行するためのワークショップを開催する。 ①新規対象地域 11 ユニオンでワークショップを開催し、先行案件の活動と成果を共有し、今後の対策について協議を行った。選挙の影響を受け一部遅れたが、12 月までに 11 ユニオンにて全て完了し、議長、議員、秘書官の計 139 人が参加した。 ②先行案件で組織化された社会支援グループ（SSG）の成果を引き継ぐためのワークショップを、先行案件 4 ユニオンおよび新規対象地域 11 ユニオンの全 60CC に対して実施し、NCDs 対策推進における地域住民参加の重要性および、特に対策の必要な脆弱者や周縁化されたグループ・地域の確認などを踏まえたローカルレベルプランを策定した。

(イ) 実地活動や研修を通じて「NCDs 対策ボランティア」を養成し、地域内の多様な組織を強化する。

①CG ワークショップを 60 回実施し、計 685 人が参加した。NCDs 予防方法や管理全般、SSG の成果、住民ボランティアとの連携方法について共有後、地域的・社会的事情から保健サービスのアクセスの悪い人・地域を明らかにし、取り残される人が生じないように配慮した計画を立てた。ワークショップに参加できないメンバーもいたが、その後の活動を通じて NCDs 対策ボランティアとして活動できるメンバーを徐々に増加させた。

②地域内の多様な組織へ研修を実施した。

- ・保健ワーカーオリエンテーションを 8 回実施し 217 人が参加した。
- ・対象地域内の中学校 85 校（普通学校 54 校と宗教学校 31 校）にてオリエンテーションを実施し 1,253 人の教師が参加した。
- ・既存・新規グループの強化

11 ユニオン内で 27 のユースクラブを選定し、160 人が参加した。

ユースクラブのメンバーが少ない地域では、CG の下部組織であるコミュニティサポートグループ（CSG）メンバー 39 人もワークショップに参加した。（合計 199 人）

・女性主体の健康増進を目的に、「女性グループ」を各ユニオンに立ち上げることとし研修を実施した。各グループは、ユニオン女性議員 3 名と各地区から 17 名計 20 名によって構成され、女性議員の指示のもと動くこととなった。（合計 220 人）

(ウ) (ア) と (イ) で育成した人材が協働し、脆弱層（特に女性、貧困者、患者）を主な対象として、地域ぐるみでの環境改善推進を支援する。

①CG が弱者に配慮した活動計画を作成し、健康診断キャンペーンを実施した。地理的（保健施設から遠い）・社会的（職業・宗教）に保健サービスを受けにくい人々に配慮して、特に対策が必要な地域として 175 のエリアを選定した。健康診断キャンペーンでは、CC と家族福祉センター（FWC）で 104 回、フィールドで 149 回計 253 回実施され 16,131 人が参加した。そのうち 81%（13,041 人）が女性であった。

②NCDs 対策ボランティアによる啓発活動

実施主体	参加者数（人）	実施回数等
保健ワーカー	82,451	14,786 回
ユースクラブ	16,655	966 回
宗教指導者（モスク）	26,756	181 回
中学校	26,541	85 校
計	152,403	

③中学校における健康教育プログラムは、85 校 511 人の教師が NCDs に関連した保健教育を実施し、26,541 人（全生徒数 28,648 人の 93%）が参加した。

④ターゲットエリア内の全 60CC と FWC が NCD の予防啓発と健康診断を開始した。

⑤健康診断の結果は全て CC のノートに記録をした。そのうち、見守りが必要な患者については、モバイル健康推進キャンペーンにてフォローアップをしている。

※同時に DGHS からの要請を受け、各ユニオン 1CC を選定し、その CC から県病院にリファラルした患者の追跡調査を実施している。

⑥地方行政機関ユニオンが中心となり NCDs を克服するための環境改善を開始した。

⑦CG や NCDs 対策ボランティアが中心となり、脆弱エリアにてモバイル健康推進キャンペーンを実施し、463 人（女性 344 人、男性 119 人）

	に対して環境改善を促した。 (エ) 先行案件と本事業の対象地域（シヨドル郡）でモニタリングと効果検証を行う。 2016 年 4 月に新 11 ユニオンにおいて各 100 人計 1100 人に対するベースライン調査を、2017 年 2 月に 550 人に対して中間フォローアップ調査を行った。先行案件 4 ユニオンに関しては、2015 年 11 月のフォローアップ調査の結果を活用し、両者を比較検討した。 先行案件 4 ユニオンでの活動モニタリングを実施し、ユニオン評議会事務所、CG18 ヲ所、モスク 11 ヲ所、運動グループ 4 ヲ所や家庭菜園・家畜飼育研修を受講した患者家族の実施状況のモニタリング調査を実施した。 (オ) プロジェクトを通じて得られた教訓とスキルをクルナ管区の他のユニオンに普及する。 保健サービス局と協議を重ねながら健康診断ガイドブックを作成した。2 年次よりターゲットエリアになる予定のクルナ管区 9 県を訪問し、対象ユニオンを選定した。
(3) 達成された成果	事業全体の裨益者 ・ NCDs 対策知識の強化対象者 達成目標：シヨドル郡内：計 2547 人（CG メンバー1020 人、ユニオン行政スタッフ 220 人、保健ワーカー189 人、中学校教師 920 人、地元グループ 198 人） 個々の事業に沿って成果を述べれば次のとおりである。 (ア) コミュニティ・グループ（CG）に地域レベルの NCDs 対策活動が移行される。 ①ユニオンワークショップを通じて、特に支援が必要な地域やグループについて協議し、対策の優先順位を決定したユニオンの数（先行案件対象地域を除く 11 ユニオン） 達成目標：1 年目 11 ユニオン 達成状況：全 11 ユニオンがワークショップを実施し、対策優先地域を選定した。 ②CG ワorkshopを通じて、地域活動計画を作成する CG の数（先行案件と新規案件のシヨドル郡 15 ユニオン全 60CG の 8 割） 達成目標：1 年目 48CG 達成状況：60CG（全 60CG）が地域活動計画を作成 (イ) NCDs 対策ボランティアが育成され、地域内の多様な組織が NCDs 対策のために強化される。 育成されたボランティア数：計 2179 人 ①NCDs 対策の実施者となる CG メンバーの数 達成目標：1 年目 240 人（60CG×各 4 人） 達成状況：399 人（ワークショップ参加者は 685 人）が健康診断キャンペーンに主催者として参加（後方支援含む）。 ② NCDs 活動を推進する保健ワーカーの数 達成目標：1 年目 124 人 達成状況：176 人。啓発活動、健康指導、レファール、フォローアップなどを実施。データ管理や部下の指導を行う管理職を含む。 ③ユニオン、学校、ユースクラブ等で活動する健康推進ボランティアの数（研修受講者は計 1338 人を予定） 達成目標：1 年目 857 人

達成状況：1,604人

ユニオンメンバー	100人
女性グループ	132人
学校教師	1240人
ユースクラブ・CSG等	132人

(ウ)(ア)と(イ)で育成した人材が協働し、脆弱層(特に女性、貧困者、患者)を主な対象として、地域ぐるみでの環境改善推進を支援する。

①各ユニオンが健診キャンペーンを30回ずつ実施する(15ユニオン)

達成目標：1年目10回(全15ユニオン)

達成状況：全15ユニオンで計253回を実施。ユニオンごとでは、最小実施数は15回、最大19回である。

*指標の一部変更について6月16日付けの変更報告書にて報告済み。

②健康教育を受ける中学生の数

※ショドル郡11ユニオンの92校約4.1万人

達成目標：1年目24,600人

達成状況：85校の26,541人

*現在実際に動いている11ユニオンの学校が85校

③NCDs対策を行うコミュニティクリニックの数(全60CC8割以上)

達成目標：1年目38CC

達成状況：60CC

④環境改善(ヒ素検査プログラム実施、改良かまど・家庭菜園・運動習慣形成の推進)を実施するユニオン数(全体数15)

達成目標：1年目10ユニオン

達成状況：全15ユニオンで環境改善が行われたが、ユニオンによって内容に差がある。

⑤健康診断キャンペーンを受ける女性の数

達成目標：1年目7,500人

達成状況：1,3041人(253回実施、全参加者は16,131人)

(エ)先行案件と本事業を通じて得られたデータの分析結果が、本事業の活動に活かされる。

達成目標：先行案件の対象4ユニオンと、本案件で新たに対象地域となる11ユニオンの「住民の意識・行動および地域の保健サービス」に関する差が数値で示される。

達成状況：先行案件4ユニオンのフォローアップ調査(2015年11月実施)の結果と、新規11ユニオンのベースライン調査(2016年4月, $100 \times 11 = 1100$ 人)および同地区のモニタリング調査(2017年2月, $50 \times 11 = 550$ 人)の結果を比較した。

住民の知識と行動に対する調査

	先行案件4ユニオン事業終了前 (2015年11月)	新規11ユニオン	
		事業開始時 (2016年4月)	1年次終了前 2017年2月
NCDを知っていますか?	91.0%	0.82%	76.73%
NCD疾病名(1つ以上)	90.8%	0.82%	77.09%
NCDの原因(1つ以上)	98.5%	6.45%	87.63%
野菜摂取量平均	337g	235g	329g
かけ塩の習慣(家族)	41.3%	93.02%	57.64%

	ヒ素検査の実施	82.0%	2.55%	9.45%	
	改良かまどの設置	35.0%	7.73%	19.82%	
	定期的な血圧測定	78.0%	9.55%	66.18%	
	事業開始 1 ヶ月後では、先行案件と新規ユニオンの住民の知識と行動には大きな差が確認されたが、事業開始から 11 ヶ月後には、11 ユニオンにて各数値とも大きく上昇し、差が小さくなっている。				
	地域の保健サービス（2017 年 3 月現在）				
		4 ユニオン	11 ユニオン		
	NCD 指導をする CC/FWC	100%(全 22)	100%		
	健診を実施する CC	100%(全 18)	100%		
	ヒ素検査を実施するユニオン	75%	100%		
	学校啓発(中学校)	データなし	100%		
	先行案件 4 ユニオンでは、SSG から CG グループへの活動の移行とモニタリング調査が主な活動であり、インプットは少なくなっている。そうした中で、CC/FWC の活動は継続しており、持続性の高さを確認することができた。先行案件終了後も 61 の健康診断キャンペーンが実施され（内 52 回が CG にて実施）、2960 人（男性 635 人、女性 2,325 人）が参加した。				
	ユニオンヒ素検査は選挙にて議員が代わったこともあり、アラブプールユニオンでは実施されてない。しかし、他 3 ユニオンでは継続しており、24 基の井戸が新たに検査された。改良かまどはユニオンや保健ワーカーの支援により、4 ユニオンで 227 基が導入された。				
	SDGs 持続的開発目標との関連：本事業は特に以下との関連が強い。				
	目標 3 保健と福祉の推進				
	【3. 4】2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健および福祉を促進する。【3. 9】2030 年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質および土壌の汚染による死亡および疾病の件数を大幅に減少させる。				
	【3. a】すべての国々において、タバコの規制に関する世界保健機関枠組み条約の実施を適宜強化する。				
	本事業は対象地域内の主な NCDs のリスク要因（①不適切な食事、②運動不足、③タバコ類及び室内空気汚染、④砒素による水質汚染）を取り上げ、これらのリスクの低減/排除を推進し、健康の維持・増進に努めている点において持続的開発目標の達成に貢献している。				
	(4) 持続発展性	本事業で育成したボランティアは、中学校教師（転勤がない）、政府保健ワーカー、ユースクラブメンバーなど、地域内で継続的に活動ができるメンバーが大半を占める。			
		先行案件から引き継いだ活動である住民グループ主催の健康診断キャンペーンおよび CC/FWC での NCDs サービスの提供は、先行案件 4 ユニオンにおいて、プロジェクトからの投入を大幅に縮小した後も継続しており、アプローチの持続性を確認することができた。			
		保健サービス局とは郡、県、管区、国の各レベルで丁寧に協議をしながらプロジェクトを進めている。NCDs 対策を推進する NCDC 室は、本事業への関心が高く、アプローチや成果品の一部を積極的に政策に取りこむ姿勢を示している。本プロジェクトはバングラデシュ政府の NCDs 対策に直接的・間接的に影響を与えつつある、と言える。			
	本プロジェクトでは、フィールドレベルを含む全プロジェクトスタッフと参加型自己評価ワークショップを定期的に持っており、現活動の持続性の弱い点についてスタッフが自覚をし、克服方法を考える能力の強化を図っている。				